

シューズの規定について

中体連作成

現在の陸上競技のルールでは、靴底の厚さに関するルールがあります。中学生の競技会においても、本ルールを適用していくことになります。規定範囲外のシューズについては、一切使用することが認められません。競技会への参加することができません。もし使用した場合、失格となります。一般的に市販されている陸上競技用スパイクについては、規定範囲内となっていますので、使用することができます。

靴底の厚さの規定

- 800m未満のトラック競技：20mm
- 800m以上のトラック競技：25mm
- フィールド種目：20mm
- 三段跳：25mm以内

※一般的なランニングシューズ、通学用シューズなどは、多くの種類が20mm以上となります。使用できませんので、ご注意ください。(20mm未満の物もあります)

各選手の対応として

- ・トラック種目、走高跳、走幅跳、ジャベリックスローについて、基本的にはスパイクシューズを使用して出場してください。
- ・砲丸投・円盤投については、スローイングシューズ(投てき専用シューズ)を使用してください。準備できない場合、確実に靴底が20mm未満のシューズを使用してください。
例：20mm未満のランニングシューズ、体育館シューズ、スニーカー等
スローイングシューズ以外は、靴底の計測を行います。

現在、厚底規制についての様々な情報が錯綜しており、混乱を招いている状況です。現段階での取り決めと、すでにご質問があった内容についての今後の対応について記載しました。内容をご確認いただき、お間違えのないよう各所属で対応をお願いしたいと思います。

○フィールド競技用シューズ適用除外措置について（2021/4/5）

上記措置を行えば、「除外措置なので、厚さが規定以上でも認められるのではないか」、「中学生は認められるのでは・・・」など、色々な解釈ができるため混乱しています。今回の上記措置は、一般的に市販されているフィールド競技用シューズ（市販スパイクやスローイングシューズ）についての記載です。市販されているフィールド競技用シューズの中に、厚さが規定以上のシューズが存在していることが判明し、それらを買直しさせるのは、経済的な負担が大きいということで、「すでに市販されている既製品のフィールド競技用シューズ（スパイク、スローイングシューズ）の中に、基準値以上の物があるが、これらの使用は認める」ということです。よって、「厚底が認められる」「猶予措置とすることで、規定外が認められる」ということではありません。あくまで、市販品のスパイクやスローイングシューズは使えますということです。

ルール通りフィールド競技では、20mmを超えるシューズは使用できません。

○メーカーの記載には○○mm 以下と記載してあるが、実際に計測してみると規定以上の厚みであった。

→現在、認められるシューズについてはWA（世界陸連）がリストを提示しています。

そのシューズがWAのリストに載っているかどうかで判断します。載っていれば、使用可能ですし、載っていなければ測定して判断することになります。

WAのリストに載るためには各メーカーが申請を行い、承認を得たシューズのみが記載されるため、販売時にリストに記載されていない場合があります。その場合については、計測の対象となります。よって、その計測により基準を超えていた場合は、競技会での使用はできません。使用した場合は、失格となります。

リストに記載されているシューズは、使用可能ですが、実際に測定すると基準値を超える物が存在します。それらについては誤差として判断し、使用が認められることになっています。

（しかし、日本陸連のQ&Aには、リストと実測値、どちらを優先するかについては、実測値と回答されています。このあたりが整備途中であり、混乱を招く原因ですが、競技会においてはリストで判断した後、実測値で判断していくことが妥当と考えております。）

ですので、WAリストで使用可能となっているシューズについては、確実に使用が可能です。こちらについては、すべてのシューズの誤差を認めるということではありません。

シューズの規定

